

書

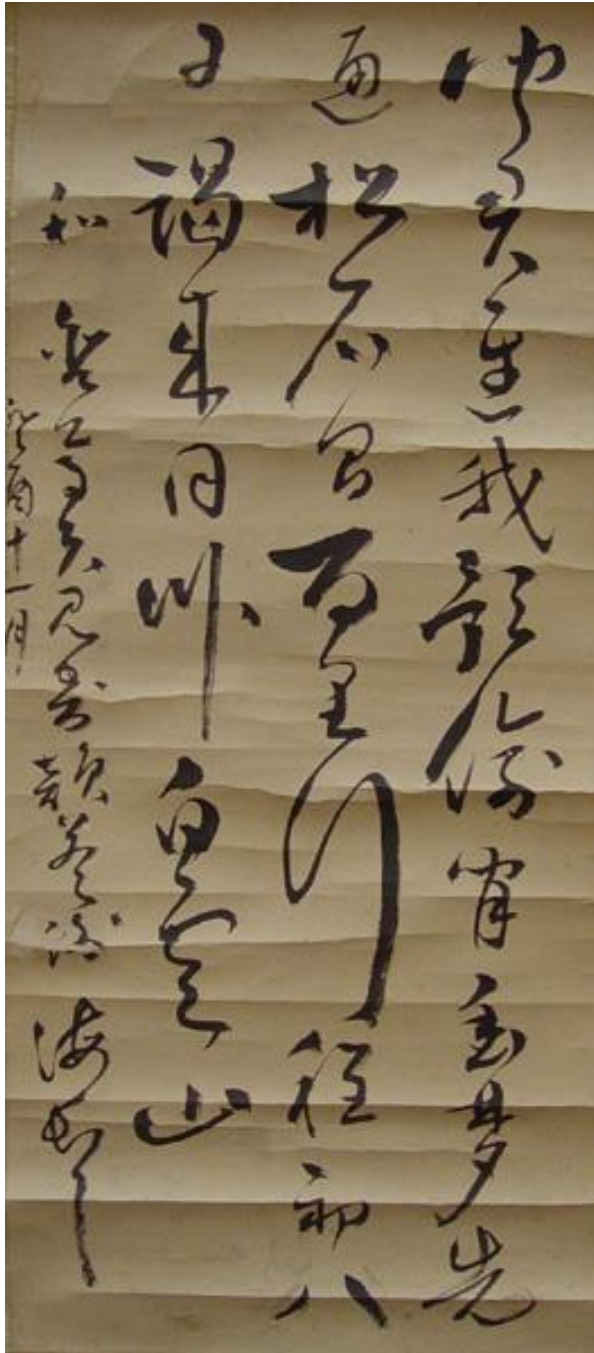
貫名海屋

制作年：江戸後期

サイズ：53.4×23.0cm

材質：紙本墨書

所蔵：中津市木村記念美術館



本文：「御君主我預倫背幽夢先/通松石間百里行程初八/日謁来日臥白雲山」

画面左：墨書「和聖高天見口韻若口海口/
癸酉十一月」

1996(平成8)年に中津市に寄贈

貫名海屋（ぬきなかいおく、安永7(1778)～文久3(1863)）は江戸時代後期の儒学者・書家・画家で、徳島に生まれました。姓は吉井、名は茗、字は子善・君茂、海仙・海客・林屋・海屋など諸号があります。藩の御用絵師狩野派の矢野典博に習い、のちに南宗画に転じました。高野山で空海の筆跡に傾倒し、先人の書を広く学び、幕末の三筆の一人とされます。また儒学を中井竹山に学び、大坂の郷学校懐徳堂で学んだともされます。京都・岡崎などに住み須静塾で教授し、晩年蔵書を下賀茂神社に寄進しました